

平成 30 年度第 2 回（通算第 32 回）POC 技術委員会議題

日時： 平成 30 年 10 月 11 日（木）13：10～14：30
場所： 神戸国際会議場
参加者： め谷直人、菊池春人、福田篤久、桑克彦、坂本秀生、櫛引健一、
小林隆、東野功嗣、岡田健、山崎 家春、後藤慎一、竹澤理子、
久保田芽里、三好雅士、太田麻衣子、服部聡、木下敬一郎、
江原佳史、中村政敏、福岡京子、木下陽介、乗船政幸、繁正志、
佐藤寛、加藤、奥村道之、中井剛史、弘田浩之、福田滋弘
水戸部晶、奥村淳、吉尾仁美、薬師寺小百合、樋渡亮二、
小花裕二、大久保和弘、奥田優子、岡尚人、
記録： 岡尚人

報告・協議事項

1. 委員会名簿

委員交代：日本臨床検査技師会 小島委員から滝野寿委員へ

新委員：江原委員、木下（陽）委員、繁委員、中村委員、乗船委員、福岡委員

2. POC セミナー予定

1) 第 67 回 POC セミナー： 櫛引委員

「POCT の利活用に関わる通信技術とその現状」

平成 30 年 10 月 11 日（木）14：40～17：40

定員 120 名

（第 50 回日本臨床検査自動化学会開催時・医療情報委員会との共催企画）

会場： 神戸国際会議場

単位： 3 単位を予定

2) 第 9 回 POC コーディネータ更新セミナー： 坂本委員

テーマ： POC コーディネータの価値とは」

日時： 平成 30 年 10 月 12 日（金）13：30～15：30

定員： 100 名

会場： 神戸国際会議場

単位： 2 単位を予定

3) 第 68 回 POC セミナー： 竹澤委員

「POCT 対応遺伝子検査システムを学ぼう」

～感染症検査を中心に～

平成 30 年 11 月 18 日（日）9：00～11：30（受付開始 8：30）

定員： 50 名 募集を開始し 36 名の登録が 9 日時点であり

第 65 回日本臨床検査医学会学術集会 共催企画

会場： 第 7 会場；京王プラザホテル本館 4F 花 C・D （変更有）

単位： 2 単位を予定

内容： 講演＋関連機器展示およびメーカーによる説明有

備考： 学会申込みページの会場の変更を依頼実施の事 竹澤

4) 第 69 回 POC セミナー： 三好委員

テーマ： POCT による災害対策

日時： 平成 31 年 2 月 10 日（日）13：00～15：00

共催： 第 29 回生物試料分析科学会年次集会

会場： 岡山理科大学

単位： 総論 2 単位を予定

定員： 80 名

費用： 交通費、謝金は生物試料分析学会が負担で合意

幹事： 三好委員が代表幹事となり、他のメンバーを今後決定する

5) 第 70 回 POC セミナー： 三好委員

テーマ： 救急医療における血液ガス検査

共催： 認定救急検査技師制度部門

日時： 平成 31 年 5 月 17 日（金）

共催： 第 68 回日本医学検査学会・スキルアップ研修会

会場： 下関

単位： 4 単位を予定

定員： 150 名

講師： 認定救急検査技師制度部門が候補を選定済

他： 国内血液ガスメーカーに対し依頼し、7～8 社の実習を依頼予定

6) 第 71 回 POC セミナー

日本臨床検査自動化学会大会

日時： 未定

場所： パシフィコ横浜

内容： 学会テーマが臨床検査の精度管理:となっており、技術セミナー、更新セミナーの何れかで“POCT の精度管理”をテーマとしたセミナーを企画する事で合意

3. POC コーディネーター : 後藤委員
POC コーディネーター取得・更新状況
新規 10 名
更新 14 名
現時点での POCC 人数は 303 名
4. POCT 測定者（仮称）の資格認定試験 : 菊池副委員長
報告 : 日本臨床検査同学院の新規事業として平成 33 年の試験実施をめざし
「認定 POC 測定者事業」を準備中。本認定は、測定者（医師、看護師）に対する認定であり、本委員会で教育を推進している POCC はその上位に位置する者である。2018 年第一回 POC 技術委員会では、POC コーディネーター認定と報告され合意していたが、認定 POC 測定者制度と訂正報告された。
討議 : POC コーディネーター制度に関しては、日本臨床検査自動化学会主導で進めるべきであると本会で合意された。
また、康理事長より、日本臨床検査自動化学会よりは、当委員会が実施している POC コーディネーター研修の地位が保たれるよう日本臨床検査同学院に申し入れをしている。
5. POC セミナー報告 : 後藤委員
1) 第 66 回 POC セミナー
テーマ : 「事件は現場で起きている！その血糖測定、大丈夫？」
～血糖測定におけるピットフォールを学ぶ～
日時 : 2018 年 5 月 11 日（金）14 : 00～17 : 00
共催 : 第 67 回日本医学検査学会
静岡県臨床検査技師会主催・スキルアップ研修会
単位 : 3 単位
参加 : 69 名
費用 : 収入 : 3000 円×69
支出 : 講師の謝礼、交通費を差し引き全額静岡臨技に納付
6. POCC 用語の統一について（POC coordinator） : 小林幹事委員
“POC コーディネーター”と統一する（2018 年 10 月 11 日より実施）
後藤委員が担当となり、ホームページ、書式等すべてを改訂する
7. その他
1) 1st Asia Pacific POC Coordinators Workshop 報告 坂本委員、奥田委員

日時： 2018年7月
参加者： 坂本委員、奥田委員が本委員会より委員長推薦とし参加していた
報告： ワークショップ形式で、SOP等の製作等を実施した、ワークショップ形式をPOCセミナーへ反映する
費用： 第一回アジア太平洋POCコーディネーターワークショップが負担

- 2) 九州地区の卒後セミナーでPOC関連研修会を予定 中村委員
2019年9月開催予定の九州地区地域開催セミナーに関し、単位認定の申請があり、当委員会として承認し、理事会へ上申する事とした。

単位認定に関しては、地域主催のセミナーであっても委員会委員内での審査(メール審査)し、その後理事会承認を得て認定とする。単位は、講義のみの場合、総論のみとし1時間当たり1単位

3) 次回委員会

日本臨床検査自動化学会 第33回春季セミナー会開催時に開催
場所： 札幌
日時： 2019年4月26日(金) [時間は未定]

以上、

第 68 回 POC セミナー
(第 65 回日本臨床検査医学会学術集会) 催しセッション

| | | |
|--------------|---|--------------------------------------|
| テーマ | 「POCT 対応遺伝子検査システムを学ぼう」 ～感染症検査を中心に～ | |
| 概要 | 近年、核酸抽出から増幅反応、検出までをすべて自動で行うシステムが開発され遺伝子検査の利用が身近になってきた。この遺伝子検査の中でも POCT (Point of Care Testing) としての機器・試薬は注目されている。主に感染症検査に利用されており、Hand-on-Time が短く全自動で測定結果が得られ、Therapeutic(total) Turn Around Time(TTAT) が短いことが特徴といわれている。今回のセミナーでは、感染症検査の現状と POCT 対応遺伝子検査を学ぶ企画を用意する。 | |
| 実施概要 | | |
| 開催形式 | 第 65 回日本臨床検査医学会学術集会と (一社) 日本臨床検査自動化学会の共催企画 | |
| 開催日時 | 平成 30 年 11 月 18 日 (日) 9:00～11:30 (受付開始 8:30) | |
| 開催場所 | 京王プラザホテル本館 4F 花 C・D | |
| 取得単位 | 2 単位 (総論・運用技術論) (一社) 日本専門医機構の専門領域 1 単位 | |
| 募集人数 | 70 名 | |
| 幹事 敬称略 | 竹澤 理子 | 三井記念病院/JSCLA POC 技術委員会委員 |
| | 太田 麻衣子 | 亀田総合病院/JSCLA POC 技術委員会委員 |
| | 奥田 優子 | 東邦大学医療センター大森病院/JSCLA POC 技術委員会事務局 |
| | 東野 功嗣 | アークレイ(株)/JSCLA POC 技術委員会幹事委員 |
| | 薬師寺 小百合 | ロシユ・ダイアグノスティックス(株)/JSCLA POC 技術委員会委員 |
| | 小林 隆 | 栄研化学(株)/JSCLA POC 技術委員会幹事委員 |
| | 岡 尚人 | ラジオメーター(株)/JSCLA POC 技術委員会事務局補佐 |
| 講師及び 内容 | <第 1 会場> 1. 9:00～9:30 教育講演 (30 分) 座長: 太田 麻衣子 POCT 対応遺伝子検査を実施する施設からの期待 公立西知多総合病院 臨床検査科 服部 聡先生 2. 9:30～10:20 企業からの展示説明 + 機器展示 司会: 奥田 優子 <第 2 会場> 3. 10:30～11:30 特別講演 (60 分) 座長: 竹澤 理子 感染症検査の現状と臨床医が望む簡便な遺伝子検査システム 亀田総合病院 臨床検査科部長、感染症科部長 細川 直登先生 | |
| 展示企業 | ベックマン・コールター(株)、アークレイ(株)、ロシユ・ダイアグノスティックス(株)、栄研化学(株) | |
| 参加費 経費・備考 | 1. 参加費は大会登録料に含まれる (第 65 回 JSLM 学術集会への参加登録が必須) 2. 企業展示+企業からの最新技術レクチャーを実施する | |

第 69 回 POC セミナー開催概要（案）

（第 29 回生物試料分析科学会年次学術集会）

| | |
|-------------------|--|
| テーマ | POCT による災害対応 |
| 概要 | 水道や電気といったライフラインが途絶し、インフラの復旧もままならない災害時には、限られた資源にて最大限の医療を提供する必要がある。このような平常時とは異なる環境下において、POCT 対応機器はその特性から大きな役割を果たすことが可能である。その一方で、日常診療に従事している多くの検査技師は、災害医療に関する十分な知識・技術を有しているとは言い難い。 そこで本セミナーでは、災害に関する基礎的な知識の習得および災害現場で求められる検査と関連する POCT 対応機器の把握を目的とし、幅広い内容でご講演いただく。 |
| 実施概要 | |
| 開催形式 | 第 29 回生物試料分析科学会年次学術集会、自動化学会との共催 |
| 開催日時 | 2 月 10 日（日） 13:00 ～ 15:00 |
| 開催場所 | 岡山理科大学 記念館 4 階 多目的ホール |
| 取得単位 | 2 単位（調整中） |
| 募集人数 | 80 名（会場 140 席） |
| 参加費 | 学会登録が必要（学会参加費に含まれる） |
| セミナー 幹事 敬称略 | 三好 雅士 徳島大学病院／JSCLA POC 技術委員会 ／JSCLA POC 技術委員会 ／JSCLA POC 技術委員会 ／JSCLA POC 技術委員会 |
| プログラム | |
| 講演 | 災害をテーマに、3～4 題のワークショップ形式で行う。 ・災害概論 ・災害時に有用な検査、POCT 対応機器 ・被害の規模から～広域 or 一部、ライフラインの状況 ・関連学会、職能団体による支援実績、支援体制 など 演者・座長）調整中 |
| 企業展示 | 調整中。 *展示に用いる資材等については展示企業負担 指頭採血を実施する場合、岡山県保健所に各種届出の有無を確認。 |
| その他 | |
| 経費 | 講師への謝金（10000 円程度）・交通費は生物試料分析科学会年次学術集会から支出 （学術集会事務局 承認済み） |

第 70 回 POC セミナー・認定救急検査技師制度共同企画 開催概要（案）

（山口県臨床検査技師会主催一行列のできるスキルアップ研修会）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|---------------|--------|---------------|-------|--------|--------|-------------|--|--|--|---------------|--|--|--|---------------|--|--|--------|-----------|--|--|--------|-----------|
| テーマ | 救急医療における血液ガス検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 概要 | <p>本企画は、2017 年に開催されたスキルアップ研修会で超満員となった人気企画、日本臨床検査自動化学会 POC 技術委員会と日臨技認定センター 認定救急検査技師制度部門のコラボレーション第 2 段である。</p> <p>今回は、救急検査および POCT の筆頭である「血液ガス」にフォーカスを当て開催する。現在、臨床現場で用いられている血液ガス装置は、pH や換気能だけではなく、電解質や血糖、クレアチニン、ビリルビンなど様々な項目を測定でき、上手く活用できれば非常に強力なツールとなる。</p> <p>本セミナーは、臨床的意義、データの判読といった基礎的な内容から、救急現場・臨床現場での有用性、新規測定項目や最新のトピックスまで、血液ガス分析のエッセンスを存分に詰め込んだ内容としたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施概要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 共催 | (一社)山口県臨床検査技師会、(一社)日本臨床検査自動化学会及び企業数社との共催 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開催日時 | 平成 31 年 5 月 17 日 (金) 時間未定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開催場所 | 海峡メッセ下関 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取得単位 | 未定 (4 単位：総論、運用技術論、測定技術論、記録・通信) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 募集人数 | 150 名 (会場により調整) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参加費 | 未定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セミナー 幹事 敬称略 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">福田 篤久</td> <td style="width: 20%;">日本救急検査技師認定機構</td> <td style="width: 20%;">/JSCLA</td> <td style="width: 40%;">POC 技術委員会副委員長</td> </tr> <tr> <td>三好 雅士</td> <td>徳島大学病院</td> <td>/JSCLA</td> <td>POC 技術委員会委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>/日本救急検査技師認定機構</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>/日本救急検査技師認定機構</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>/JSCLA</td> <td>POC 技術委員会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>/JSCLA</td> <td>POC 技術委員会</td> </tr> </table> | 福田 篤久 | 日本救急検査技師認定機構 | /JSCLA | POC 技術委員会副委員長 | 三好 雅士 | 徳島大学病院 | /JSCLA | POC 技術委員会委員 | | | | /日本救急検査技師認定機構 | | | | /日本救急検査技師認定機構 | | | /JSCLA | POC 技術委員会 | | | /JSCLA | POC 技術委員会 |
| 福田 篤久 | 日本救急検査技師認定機構 | /JSCLA | POC 技術委員会副委員長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 三好 雅士 | 徳島大学病院 | /JSCLA | POC 技術委員会委員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | /日本救急検査技師認定機構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | /日本救急検査技師認定機構 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | /JSCLA | POC 技術委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | /JSCLA | POC 技術委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プログラム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講演 | <p>調整中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各論：酸素化能・換気能・酸塩基平衡 ・救急医療現場で活用される血液ガスとその存在意義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実習 | <p>調整中</p> <p>救急医療における血液ガス機器を中心に検討するが、同様の実習内容にならないよう企画する。小型携帯機～据え置き型まで。情報集約端末も。</p> <p>実習は 8～10 ブース、1 グループ 15 名前後。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------|---|
| | |
| その他 | |
| 経費 備考 | <ul style="list-style-type: none"> 1、 非会員講師への謝金・宿泊・交通費は日臨技から支出（要確認） 2、 試薬・機器等は企業からの提供 |